

# 豊かな人間性をはぐくむ学級経営の実践 ～言語活動を用いた道徳の授業実践～

清 水 香保里

(文教大学教育研究所客員研究員／埼玉県川越市立南古谷小学校)

## The Practice of the Classroom Management to Nurture a Child of Sound Mind ～Lesson Practice of the Moral Education with Language Activities～

SHIMIZU KAORI

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University ;  
Saitama Kawagoe MinamiFuruya Elementary School)

### 1 はじめに

平成23年度より完全実施となった学習指導要領の改善に、言語活動の充実が掲げられている。

道徳においては、「自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること」とある。

また、言語活動の観点からは、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める観点から、書く活動や話し合う活動など一人一人の感じ方や考え方を表現する機会を充実し、自らの道徳的な成長を実感できるようにする。」と『言語活動の充実に関する指導事例集』にあり、次の4点を留意して取り組むことが必要であると示されている。

- ①児童が問題意識をもち、意欲的に考え、主体的に話し合うことができるよう、ねらい、児童の実態、資料や学習指導過程などに応じて、発問、話し合い、書く活動、表現活動など指導方法の工夫が求められる。
- ②資料や体験などから感じたこと、考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる人の考えに

接し、協同的に議論したり、考えをまとめたりするなど、言葉の能力を総動員させて学習に取り組みさせる。

- ③人に感動を与える心の美しさや強さを浮き彫りとした教材等を活用することが考えられる。
- ④自分自身と集団や社会との関わりについての考えを深めるために、公正、社会正義などの道徳的諸価値に関わる様々な課題について討論等を行い考察させるような指導を行うことが考えられる。

つまり、道徳の時間にとって言語活動は、道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深める手立てとして最も重要であると考えられる。

そこで、言語活動を通して、豊かな人間性を育む道徳の研究を進めてきた。

### 2 「豊かな人間性」についての概要

豊かな心をもった「豊かな人間性」とは、どのようなものなのだろうか。

そもそも豊かな人間性とは、文部科学省が出した平成8年7月の中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」で生きる力の1つとして掲げられた。す

なわち、「変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は、基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自ら律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの生きる力である。」と提言されたのである。

つまり、豊かな人間性とは、自ら律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などであるというのである。

また、平成10年6月の中央教育審議会答申「新しい時代を拓く心を育てるために」において「豊かな人間性」については、次のように捉えられている。

- i) 美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
- ii) 正義感や公正さを重んじる心
- iii) 生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
- iv) 他人を思いやる心や社会貢献の精神
- v) 自立心、自己抑制力、責任感
- vi) 他者との共生や異質なものへの寛容

ここでは、6つの視点から、感性、正義感、公正、生命尊重、思いやり、社会貢献、自立心、自己抑制力、責任感、共生、寛容の11の概念を挙げている。そしてこれらは、新学習指導要領でも、道徳教育改訂の趣旨の中に「生きる力」の理念の共有として引き継がれた。

子どもたちに必要とされる豊かな人間性とは、美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心、自己抑制力、

責任感、他者との共生や異なるものへの寛容などの感性及び道徳的価値を大切にする心であるにとらえられる。

このような豊かな人間性を道徳で育むためには、充実した言語活動の実践や、児童を引き付ける魅力ある教材が、一方策になると考え実践してきた。

ここでは、1学年と5学年の実践を通して報告する。

### 3 研究の実践

#### (1) 発問、話し合い、書く活動、表現活動など指導方法の工夫。

道徳は、言葉をやり取りする言語活動の中で、価値について考えを深めていくものである。

発問は、教師がまず拡散的な発問を児童に投げかけ、それに児童が応答し、次に教師と児童の言葉のやりとりが続く。その時の教師の有効な言葉がけの手順が、見えてきた。

まず、児童の言葉を受けた後に教師が、言葉を繰り返したり、称賛したりする受容の言葉がけを行う。

次に、内容を整理して確認や、深く聞き込む言葉がけを行っていく。場合によっては、反対の意思表示をして切り返して揺さぶる言葉がけを行うと、効果的であった。

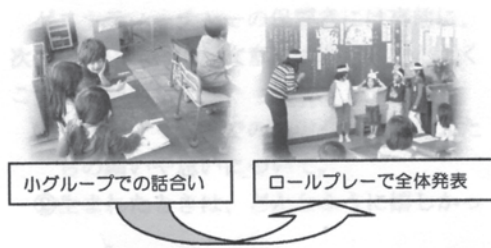
<「森のともだち」東京書籍 > T「もうちょっと詳しく教えてくれる?」(追究) C「こんきちも乱暴だけど、狼の方がもっと乱暴。」 T「もっと乱暴なんだ。」(繰り返し) C「狼の方がもっともっと乱暴だから、こんきちの乱暴は普通なんだ。」 T「でも、こんきちだって乱暴なんだよ、でも助けちゃうの」(切り返し) C「この森の仲間だから。」 T「もう、仲間なんだ、こんきちは。」(確認)
--

この繰り返しによって、児童は、自分の考

えを受け止めてもらえる嬉しさと、教師との言葉のやり取りの中で自分の考えを再確認できた様子が伺えた。

話し合いは、小グループで行い、その後に全体での話し合いやロールプレーを行った。

「森のともだち」(1学年の実践)は、「2—(3) 依頼・友情」の視点で、主発問をグループで話し合った。なかなかこんきちを許せない児童が、「こんきちを一発殴らせてくれたら許す。」という考えで、それに対して他の児童たちが説得する方向で話し合いを進めていたグループがあった。このような場面は、教室全体ではなかなか発表することまではできないが、小グループだと気さくに本音で話し合うことができる。



書く活動は、児童が自分の考えを深めたり、整理したりすることで、道徳的価値の自覚を深めるための言語活動である。

そこで、ワークシートには、展開の後段部分について書くことにした。つまり、自分自身の体験を想起して考えを書くことで、ねらいとする価値を深めていくのである。

その際、言語活動の振り返りとして、4つの観点で自己評価を行った。

- ①グループや全体の話し合いで、自分の考えが話せましたか。
- ②グループや全体の話し合いで、友達の考えが聞けましたか。
- ③自分の考えを十分に書くことができましたか。
- ④主人公の気持ちを、深く考えることがで

きましたか。

この自己評価は高学年の取り組みだが、グループでの話し合いが活発な時は、全体での話し合いも積極的であった。

## (2) 資料や体験などから感じたこと、考えたことを議論し、まとめる工夫。

魅力ある資料や体験は、道徳的価値の自覚や自己の生き方の考えを深めることができる。

ここでは保護者参加型の授業を行い、児童と保護者が共に考えていくことができた5学年の実践を紹介する。

### ○「わたしって何」

(埼玉県教委『彩の国の道徳』より)

まず、事前に学級通信で、授業参観に『家庭用彩の国の道徳』(埼玉県教委)を持参してもらおうことと、展開後段で生命尊重に関わる「母からの手紙」を、こっそり用意していただくことをお願いした。その際、ねらいとする価値からずれないように、また書き方が分からない保護者のためにヒントを示した。

#### <「母からの手紙」書き方のヒント>

- ・必要のない人なんて誰もいない。(あなたは宝物よ。)
- ・人は、必ず誰かに必要とされている。(あなたがいてくれて本当に良かった。)
- ・人は、かけがえのない命をもっている。
- ・お子さんを産んだ時の喜び。(苦労したけれど、産まれてきてくれて本当に嬉しかったよ。)
- ・東日本大震災に関連して。(たとえ家が無くなっても、あなたさえ生きていてくれればいい。)

次に授業では、主発問「わたしって何なの、と部屋で幸恵はどんなことを考えていたか。」について、トリオミーティング(3人組での

話し合い)を行い、その後に全体での話し合いを行った。小集団での話し合いは、発言に自信のない児童や、自分の考えが思い浮かばない児童にとって効果的であった。

また、トリオミーティング中に机間支援しつつ、児童の考えをあらかじめ予想していたものに分類していった。それを活用しながら意図的指名をしていくことで、話し合いが活性化した。

そして、事前にお願ひした「母からの手紙」を展開後段で手渡し、静かにじっくりと読ませた。中には、涙を流して読んでいる児童も見られ、母親の温かさを感じた。

最後に、昨年お子さんを出産したばかりの保護者をゲストティーチャーとして依頼し、命の大切さをお子さんの出産の体験と絡めて話していただいた。

ゲストティーチャーの保護者には事前に、次の3点について、文章にまとめていただくことをお願いした。

- ①生まれてくるまでの苦労や、周りの人たちの願いや思いについて。
- ②生まれたときは、どんなふうに嬉しかったか。
- ③これからどんなふうに育って欲しいか。



授業後に、今日の授業の感想を児童に書かせ、学級通信に掲載した。

<「わたしって何」の児童の感想・5年生>

・いつもは、しみったれたことはあまり言わないで、家事をきっちりやってくれて、勉強のこととか付き合ってくれるお母さんだけ、手紙を読んで、心の奥ではそんなことを思っていたんだなと思ってうれ

しかったです。

- ・お母さんとお父さんのもとに生まれて、よかったなと思いました。
- ・いつも怒られてばかりだったけれど本当は大切にしてくれていると思いました。一つしかない命を自分でも守り、そして家族にも守ってもらっていることがわかりました。
- ・この世から生まれたことに感謝したいです。
- ・いろいろなことがあっても、大切にしてくれているお母さんに、ありがとうと心から思いました。
- ・ぼくは今日、お母さんに手紙をもらってすごく心に、じーんとしました。10年育ててくれたお母さんに恩返しをしていかなければならないと思っています。
- ・自分は家族に愛されているんだなということを知って、ぼくはうれしく思いました。
- ・生まれてよかった。お母さんがいてくれてよかった。
- ・何事も前向きにやっっていこうと思いました。家族を大切にしていきたいです。
- ・生まれる時はいろいろと大変だったけど、お母さんとお父さんは私のことを、こんなに思ってくれているんだなと思いました。
- ・自分を支えてくれる家族がいて、とっても幸せです。何かあるとすぐに心配をしてくれてとてもうれしかったです。
- ・こんなに大切にしてくれているんだと思った。命は大切だと思った。
- ・自分は家族に大切にされているんだなと思いました。これからも、しっかりと生きていきたい。
- ・お母さんがあんなことを思っているなんて思いませんでした。だから、うれしかったです。最後に「大好き」というのが一番心に残りました。だから、「ありがとう」と言いたいです。
- ・お母さんは、ぼくのことを本当に大切に思ってくれてよかった。

この取り組みは、振り返りの自己評価や感想から、グループや全体の話合いはやや活発であったが、何よりも、主人公の気持ちを一人一人が深く考えることができた。母親の手紙も加わって、自分と主人公を比較しつつ共感している姿が見えた。

### (3) 感動を与える魅力的な教材の開発と活用の工夫。

魅力的な教材とは、児童が資料に集中して聞き入り、真剣に考えることができるものである。

学習指導要領解説（道徳編）には、「先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。」と示されている。

創立140周年を迎えた本校の学区に関わる偉人・先人と、スポーツを極めている本校の保護者を題材に、教材開発を行った。

ここでは、5年生、6年生の実践を報告する。

#### ○「村のために ―奥貫友山―」

学区内にある南古谷中学校のすぐ側に、大きな長屋門の屋敷がある。それが、寛保2年の大洪水で村民救済を図った奥貫友山の屋敷である。

登下校で通る身近な先人について、児童は4年生の社会科で学習している。だが、道徳の視点で学び直すことも大切である。

そこで、郷土の偉人であること、博物館や図書館に資料があること、また、本校におら



れた先生が基になる資料を作っていたことなどから、「2—(2) 親切・思いやり」の視点で資料を作り、教材化することにした。

資料は、起承転結を基に、4つの部分から構成した。

(起) 奥貫友山の人となり

(承) 大水の現状を見た友山

(転) 友山が考え実行したこと

(結) 藩主からの褒美、川越城からの帰り道

展開後段で、「本当の親切とは何か」と問いかけて、ねらいとする価値について深めていった。

「村のために・奥貫友山」は、11月に授業を実践したが、同じ「2—(2) 親切・思いやり」の視点で、7月に「雨」(星野富弘氏)を実践した。「本当の親切とは何か」を考えた、6年生の児童の変容を見るために、比較してまとめてみた。

〈本当の親切とは何か〉

(①「雨」、②「村のために」)

A

①心から人のことを思って優しくすること。

②人が困っているときに自分が手助けする。

全ては尽くせなくても、出来る限りは人のことを思いたい。

B

①人に優しくすること。

②人のことを考えて、正しいことをしてあげること。

C

①人のために自分の力で助けたり、支えたりすること。

②人のことを思いやることができる。自分が犠牲になっても、人を助けることができること。

D

①困っている時に助け合えること。

②偏見などをしないで助け合えること。

## 自由研究

### E

- ①みんなに優しくすること。
- ②自分のことよりも他人のことを真っ先に考えて行動すること。

### F

- ①相手に気を遣って、自分が行動すること。
- ②自分のことを後にして相手の身になって行動ができる人。相手に対してとても気が利く人。

### G

- ①友達が困っている時に、話しかけて助ける。
- ②相手の気持ちが分かる、誰にでも優しくして平等。困っている人を助ける人。

### H

- ①人や物を大切にすること。優しくすること。
- ②優しく、だれにでも平等で、人に譲ることができる人。相手の気持ちが分かる人。

### I

- ①困っている人を助けること。
- ②自分も相手も心が温かくなること。

### J

- ①誰にでも優しい人。
- ②一人ぼっちや悲しんでいる人を助ける人。優しく、すぐに助けてくれる人。

### K

- ①気持ちをこめて人に何かをすること。
- ②友達に優しく、困っている人を助けてくれる。

### L

- ①相手を思いやること。
- ②他人のために尽くすこと。

### M

- ①優しくしてあげること。
- ②みんなのために何かをする。例えば、人の気持ちを分かって、思いやりのあることをする。

### N

- ①友達を大切にすること。
- ②人のことを思いやることだと思います。自分ばかりのことではなく、相手のことを考えること。

たった4か月ほどではあるが、一人一人の「親切」についての捉え方が深くなっていることが分かる。「雨」では、「人に優しくする」「困っている人を助ける」など、親切を身近なところから見ているが、「村のために」では、「自分のことだけでなく相手の身になること」「自分も相手も」「助け合える」など、広く考えられている。

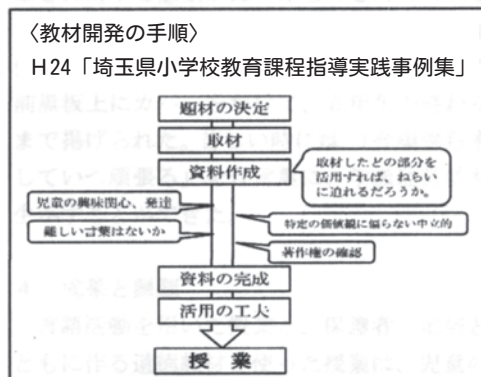
つまり「雨」は、「2—（2）親切・思いやり」の中学年の内容「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」ことで留まっているが、「村のために」では、高学年の内容「だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。」まで、高まってきたことが伺えた。

### ○「銀輪の風 競輪選手・太田真一」

学級の保護者の中に、2000年のシドニーオリンピックの日本代表で出場した競輪選手がいたことから、ぜひ、生の声を児童に聞かせたいと思い、授業の協力をお願いした。

まず、どのようなねらいとする価値にするのかを考えた。始めは、「1—（6）個性伸長」か「1—（2）不撓不屈」のどちらかで行うつもりだったが、怪我で挫折しても、あきらめずに希望をもって努力し続けておられることから、「1—（2）希望・勇気・努力」の視点とした。

取材は、資料作りのために1回、授業を共に行うための打ち合わせを兼ねて1回行った。

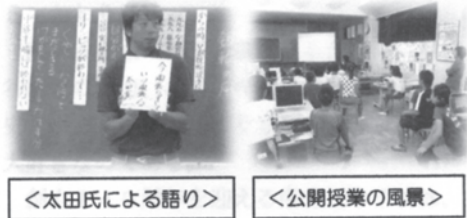


- 取材を基に、起承転結で資料構成を行った。
- (起) 競輪との出会い
  - (承) 高校新記録、プロ、オリンピック候補への躍進
  - (転) オリンピック直前での事故
  - (結) オリンピックのリベンジと今

資料作りでは、分かりやすい言葉と一文が長くならないように工夫し、テンポのある文脈を意識した。

最後に、授業の組立て、活用の仕方考えた。ここでは、太田氏が生の声で語っていただくことが、魅力的な授業につながると考え、太田氏とチームティーチングで授業を進めていくことにした。

授業は学校公開日とし、保護者の方々にも参観していただいた。資料は太田氏自身に読んでもらい、太田氏の活躍がわかるドキュメントDVDを展開の中で活用した。終末は、太田氏の座右の銘「今、頑張らずしていつ頑張る」をもとに話していただいた。



授業後、児童に授業の感想を書かせると共に、太田氏へのお礼の手紙も書かせた。また、授業の様子や感想（手紙）などは、学級通信を通して保護者に報告した。

- <「銀輪の風」児童の感想(手紙)・5年生>
- ・この言葉（「今頑張らずしていつ頑張る」）があったから、競輪の大会に出たり、メダルを取れたりしたんだなと思いました。
  - ・この言葉をめあてとして、これから頑張りたいです。
  - ・私も、「今頑張らずしていつ頑張る」ということを頭に入れて、これからも頑張りたいです。

- いです。
- ・やる気になれば、誰でもやれることが分かりました。
- ・バレーボールをやっていて、前向きに気持ち大切だと毎日のように言われているけど、今回、大切なんだと改めて思いました。
- ・太田選手の名言を聞いて、いつも後回しにするぼくには、ぴったりな名言だと思いました。
- ・ぼくは、いつも明日明日と言ってるけど、今やらないといけないことが分かりました。
- ・練習すると、いろいろなことができるようになりました。
- ・興味をもつことが大切だってことを改めて分かりました。
- ・あきらめない気持ちは、だれにでも勝てる。

紙面の資料で行う授業よりも、本人の生き様を語った授業は、児童が惹きつけられた魅力ある授業となった。また何よりも、太田真一氏本人が魅力ある人物であった。

児童の感想（手紙）を見ると、太田氏のあきらめない気持ちと「今頑張らずしていつ頑張る」に共感し、自分に振り返っているものが多い。これは、高学年の「1—（2）希望・勇気・努力」の視点「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」ことに対する意欲が沸いたものと考えられる。

授業後、太田氏の「今頑張らずしていつ頑張る」の色紙は、児童の要求もあって教室の前黒板上にカバーをかけて、5年生の終わりまで掲げていた。苦しい時には、「今頑張らずしていつ頑張る」を合言葉に、学級経営にも生かすことができた。

#### 4 成果と課題

言語活動を用いた授業と、保護者、地域とともに作る道徳教材を使った授業は、児童の興味関心が高く、積極的に授業に取り組める

ことが分かってきた。

特に保護者参観型授業は、保護者の思いを直に児童に知らせることで、児童が自己を深く振り返ることができる効果が、感想等から伺えた。これは、メタ認知できた教材の一つとして実感した。

また、「2—(2) 親切・思いやり」の同じ視点で取り組んだ授業を、時期を置いて行った場合、資料や授業形態の違いはあるが、ワークシートへの書き込みから、学びが深まっていることが伺えた。今回は、一事例のみでしか比べることができなかったが、数件の事例を比較していきたい。

今後は、これらの取り組みをさらに学校全体で発展させるために、道徳教育年間指導計画に言語活動を用いる場面やゲストティーチャーの位置づけを明確にしていきたい。

また、南古谷地区は、地域も人材も豊かであるので、さらなる教材開発を試みていく必要がある。

## 5 おわりに

南古谷地域の行事に参加するたびに、南古

谷地区の活力、エネルギーを感じてきた。歴史や伝統があり、何よりも皆、南古谷地区が大好きなのである。

創立140周年を迎えた南古谷小学校は、学校も、保護者も、地域社会も魅力が一杯である。

南古谷小学校の児童が、さらに心豊かに育んでいくための道徳教育の実践の研究を積み重ね、広げていきたいと考える。

なお、本論文に掲載した画像は全て、本人の承諾を得て使用している。

### <参考文献>

- 1) 『埼玉県小学校教育課程指導実践事例集』埼玉県教育委員会、2012年
- 2) 文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～』教育出版、2011年
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領解説・道徳編』東洋館出版社、2008年
- 4) 拙著「豊かな人間性をはぐくむ学級経営の実践～言語活動を要とした学級の指導～」2009年